

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 6年 3月 27日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ヒトツナ金沢黒田教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		静のお子さまと動のお子さまが同じ空間でも行動出来る声かけや配慮を極力している。	適切であると感じるが(9人以下があるので)当日の子どもの状況や気持ちにより手狭に感じる時がある。天気の良い日は公園に行くなどの工夫が必要と感じる。
	2	職員の配置数は適切である		○	保育士や障がい支援の経験のある方が多い職員にいます。	正規職員の充足を引き続き図る。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	車いすの御利用は工夫しても難しいところがある。	バリアフリーを希望なさるご利用者がいらしたときには、真摯に対応し、解決策があるかどうか考える。
	4	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃を子どもたちとしている。活動に応じて都度レイアウトを変えている。	清掃のさらなる工夫がある(年一回のカーペットクリーニング等)
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	職員みんなで考えて全て行うようにしているが未だ未達成と感じる時もある。	左記継続する。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		お迎えや送りの際、もしくはHUGを使用し、のやりとりを密に取るようにしている。	継続していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに公表と共に保護者さまへの告知様式も作成している。	左記継続する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者評価の実績なし	再考してみる。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に行っている。市や県の研修にも参加出来る環境作りをしている。	左記継続する。(月一回目標)
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者との関係を密に取るように努めている。日常の様子や、事業所にしてほしい事の聞き取りに努めている	左記継続する。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		使用している。	使用しているが、各々に合わせた文言なども追加してゆく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		コロナの状況もあり、計画して頓挫することも多々あった。	地域支援が未だ達成されていない。努めてゆく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		ケース会議では計画に基づいて支援員で再考している。	修正が必要になる時は、ご家族に相談したうえで計画を随時変更している。都度相談支援専門員にも郵送してゆく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ひとりの意見では無く、複数人での意見を取り入れている。	毎日のミーティングの議題にも上げ続けてゆく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		複数回経験出来る物事や、体験出来る人のバランスが取れるように工夫している。	年長から4年生までの複数人が出来るようになるプログラム作成に努める。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		毎回のミーティングで職員それぞれの観察力からの意見を共有するようにしている。	飽きの来ない楽しいプログラムの工夫をしている。静と動の組み合わせ等。	

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		時間をかけて毎回職員みんなが発言できるようにしている。	新しい職員も入ってくるため、共有をマストに行う。
	18	支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日のうちには出来かねる状況であるが、出来るだけ当日のうちに話すことはしている。	翌日も同じ職員での勤務がほぼであるため、翌日で大丈夫な話は翌日のミーティングで話すようにする。
適切な支援の提供	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		タブレット端末も使用できるようにしてある。紙でのメモも残すようにしている。	タブレットをもう少し上手に使用できるように網羅したい。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に一回行っているが、状況に応じて時期をみじかくしたりしている。	相談支援専門員さんにも、状況の共有をし続ける。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		同時利用している他のデイさんにも声をかけてもらっている。	やども園との関係もこれから深くなれるといいなと思うが、会議の出来る時間帯が各々違うため、難しさを感じる時もある。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		相談支援専門員さんに間に入ってもらうときもある。	やども園との関係もこれから深くなれるといいなと思うが、会議の出来る時間帯が各々違うため、難しさを感じる時もある。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		該当者なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		該当者なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		ご家族のご要望があれば、相談支援専門員さんと共有した上で、関係を構築している。	デイ側が共有したいと思っても、未だ認知度が低いためか、なかなか進まない時がある。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		ご家族のご要望があれば、相談支援専門員さんと共有した上で、関係を構築している。	来年度が年長から1年生にあがる最初の年であるため、努めてゆきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		造形活動に活発な事業所さまが居るので、来年度から参加できるようにお願いをしたところである。	左記に努める。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園での遊ぶ際には声をかけ、一緒に遊ぶようにしている。	こどもSOSに登録しようと思っている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		いまだ未達成	情報収集から始める。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎日のサービス提供記録はもちろんのこと、電子媒体を用いて気軽にお互い発言出来る環境と状況を準備している。	言いにくいことをもっと言い合える環境にしたいと思っている。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		未だ未達成。	情報収集から始める。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用時に時間を充分にとり、疑問は解決するように努めている。	運営規定の変更など、変更時に迅速に伝えることが出来るように努める。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		利用時に時間を充分にとり、疑問は解決するように努めている。	さらに出来るように努める。	
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		その日のうちになんらかのアクションを。を目標としている。	時間や場所、タイミングを考えながら、ご本人にそう形で少しづつ打ち明けられる環境作りをしていくよう努める。	
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		コロナもあけたので、そろそろ動き出そうと思っている所である。	昼間のお茶会や土日の造形活動を考えてゆこうと思っている。	

保護者への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		その日のうちになんらかのアクションを。を目標としている。	時間や場所、タイミングを考えながら、ご本人や保護者さまにそう形で少しづつ打ち明けられる環境作りをしていくよう努める。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月通信を紙で出している。関係のある相談支援専門員さまにも郵送している。	左記 継続していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		採用時研修に個人情報に関する研修をしている。個人情報の取り扱いに関する契約書の取り交わしも従業員としている。	左記継続していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ご本人の言葉が出た時はその言葉のまま、ご家族さまに伝えている。	左記継続していく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナもあけたので、そろそろ動き出そうと思っている所である。	左記継続していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		事業所内でこじんまりと行っているが、次年度からは利用者の数が多くなるため規模の拡大を考えている。	左記継続していく。
	42	2 非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		事業所内でこじんまりと行っているが、次年度からは利用者の数が多くなるため規模の拡大を考えている。	能登の地震もあるので、地震の避難に留意し定期的に行う予定を立てている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		個人ファイルに記載あるものを、避難カードに転記している。	必要に応じて内容の追加をしていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	該当者なし。	該当する利用者が在所することになった際に対応する。アレルギー対応の研修を職員は受けている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		積極的に記入するようにし、ミーティングにて共有及び再発防止策を職員で考えている。	左記継続する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年1回の虐待防止に関する研修を職員で受講している。	左記継続する。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		年1回の身体拘束に関する研修を職員で受講している。今のところ該当するお子さまが居ないので実施しては居ない。	該当のお子さまが利用し始めた時に再考する。